

第3週 水曜日 早課 カノン

第1のカノン3調イオシフの作、第2のカノン2調フェオドルの作

第3歌頌

我が心は主の中に堅められ、我が角は我が神に在りて高くなり、我が口は我が敵の上に開けたり、蓋我は爾の救の為に楽しむ。主の如く聖なる者あらず、蓋爾の外に他の者なし、我が神の如く堅固なる者あらず。復驕れる言を言ふ勿れ、狂妄をして爾の口より出でしむる勿れ、蓋主は睿智の神にして、行為は彼に権られたり。

十四段に、

強き者の弓は弱み、弱れる者は力を帯びたり。飽きたる者は糧の為に労働し、飢えたる者は息ふ。胎荒れたる者は七子を生子、多くの子ある者は衰ふ。主は殺し亦生かす、地獄に下し亦上す。主は貧しくし亦富ますも卑くし亦高くす。主は貧しき者を塵埃より起し、乏しき者を草芥より挙げて、之を牧伯と共に坐せしめ、光榮の位を嗣がしむ。

八段に、

イルモス 3調 「主、爾を頼む者の堅固よ」

彼は其聖者の足を守る、不法の者は幽暗の中に消ゆ。

我等の為に十字架に釘せられし者と偕に釘せられして、我等は齋と祈祷と冀願^{きがん}とを以て我が肉の肢体を殺さん。

蓋人の力を持って堅固なるに非ず、主は之に敵する者を砕かん、主は聖なり。

爾の十字架を以て罪の荆棘^{いばら}を根より絶やしし主よ、我が智慧の棘の思を断ち給へ。

智者は其の智^{なか}を以て誇る勿れ、強き者は其の力^{なか}を以て誇る勿れ、富む者は其の富^{なか}を以て誇る勿れ。

我等は齋を靈の武器と為し、十字架の力に助けられて、抗敵する悪鬼の軍に勝たん。

誇らんと欲する者は主を悟りて彼を知り、且つ地^{うち}の中に審判と義とを行ふを以て誇るべし。

〔生神女讃詞〕至浄なる者よ、言は爾より身を取りて出でて、慈憐の多きに因りて、原祖の墮落を矯正し給へり。

イルモス 2調 「木を以て罪を殺しし主よ」

主は天に升起^{のぼ}りて轟^{とどろ}けり、彼は義にして地の極^{はて}を審判せん。

主よ、生命を施す爾の十字架は我の為に救の印なり、蓋我は是を以て抗敵する者の力を空しくして、爾を全能の神として讃め歌ふ。

彼は力を以て其の王に賜ひ、其の膏^{あぶら}つけられし者の角^{つの}を高くせん。

十字架の木は永遠の生命の為に生かす果を世界に生ぜり、ハリストスよ、我等は之を味ひて死より救はる。

光榮は父と子と聖神[°]に帰す。

〔聖三者讃詞〕我等は唯一の性の三位たる父、子、聖神を讃榮して、神性の唯一の権柄に伏拝す、蓋唯一の神は王として萬有を司り給ふ。

《三歌齋経と連接歌集》

2007 revised

Nagoya, arr. Maria Matsushima,

based on Sokrashennovo Znamenie

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕 潔き者よ、爾の産は畏るべし、蓋人と為りし者は神なり、無原に父より生まれ、末の時に爾より夫なくして生まれ給ひし者なり。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

洪恩なる主よ、十字架の恩寵の光線は已に世界に輝きて、我等衆を爾の神聖なる苦に呼ぶ、我等に熱信を以て之に伏拝するを得しめ給へ。

(詠) イルモス 2調 「木を以て罪を殺しし主よ、我等を暗示の中に堅めて、爾を畏る畏を我等、爾を歌ふ者の心に植え給へ」

第3歌頌

木を以て 罪を殺しし 主よ、我等を 爾の
うちに かためて 爾を畏る おそれを
我等 爾を歌う者の ところに 植えたまへ

小連禱

第8歌頌

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 露と霜、氷と厳寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

八段に、

イルモス、「敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに」。

天の諸^{もろもろ}の位鳥、野獣と一切の家畜と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、

《三歌齋経と連接歌集》

2007 revised

Nagoya, arr. Maria Matsushima,

based on Sokrashennovo Znamenie

十字架を以て幽暗の首領及び権柄に勝ちたる言、生命を施す主よ、権を以て全世界を審判する為に來たらん時、我が隠なる事を顕す勿れ、我が爾の多くの慈憐を讃栄せん為なり。

人の諸子は主を崇め讃めよ、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、
恒忍にして擬なる審判者よ、爾は審判座の前に立ちて審判せらるる時、爾の十字架を以て仇を定罪し給へり。故に畏を以て呼びて爾の仁愛を讃め揚ぐる者を永遠の定罪より救ひ給へ。

主の司祭等、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、
昔敬虔の少者は齋の火に練られて、神聖なる露を以て実に最高き焰を滅したり。我等も齋して悉くの翼の爐を滅さん「ゲエンナ」の焰を免れん為なり。

諸神[°]と諸聖人の靈^{たましい}と、諸義人と心の謙卑なる者と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、

〔生神女讃詞〕婚姻に與らざる少女よ、神の睿智は爾より己の為に殿を造りて、言ひ難き寛容を以て身を取り給へり、蓋し爾^{ひとり}獨無玷なる者は萬族の中より無玷なる言の居處の為に選ばれたり。

イルモス、「昔シナイ山に於て棘の中に」

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、
言を以て萬物を持つハリストスよ、爾は私の為に頬を批たるること、唾せらるること、十字架に釘せらるることを一切忍び給へり。我爾の仁愛の至大なるを萬世に崇め讃む。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、
ハリストスよ、爾は脇を刺されて羔^{こひつじ}の如く殺さる、我迷ひし羊を悪魔の網より救ひて、世々に爾の善き牢に入れん為なり。

我等主なる父と子と聖神[°]とを崇め讃めん。

〔聖三者讃詞〕唯一の神性たる三者、分たれぬ性、分かれたる酸味、永在なる権柄、父と子と聖神よ、我等爾を萬世に崇め歌ふ。

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕潔き神の母、天の戸、救の門よ、爾を萬世に讃揚する衆ハリスティアニンの祈禱を納れ給へ。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

ハリストスよ、爾の十字架を以て司祭等はほこり、諸王は堅められ、凡の信者は照らさる、我に之を見て伏拝して、世々に歌ふを得しめ給へ。

我等主を讃め、崇め、伏し拝みて世々に歌ひ讃めん、

(詠) イルモス 2調 「昔シナイ山に於て棘の中にモイセイに童貞女の奇跡を預め示し

し者を尊み歌い、崇め讃めて、萬世に讃め揚げよ。」

第8歌頌イルモス

あが ほ ふ おが
我等主を崇め讃め伏し拝みて 世々にうたい 讃めん。

むかし シナイ山に おいて、 いばらのうちに

あらかし
モイセイに童貞女の奇跡を預め示し しものを

は ばんせい ほ
尊とみ歌い 崇め 讃めて 萬世に 讃めあげよ

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句
我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ

附唱
ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあげめ讃む

第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、
→附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

- 第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱 **ヘルビムより尊く**
 第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむ
 なしく帰らせ給へり。 →附唱 **ヘルビムより尊く**
 第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラムと其の裔を
 世世に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第9歌頌

祝讀せらるる裁主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の
 角を其僕ダワイドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、
 即我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、

以て^{あわれみ}矜恤を我が先祖に施し、

八段に、

イルモス「我等信者は影及び文なる律法に於て」。

其聖なる約^{すなわち} 即 我が祖アウラムに^{ちか}矢ひたる誓を記念せん、

仁愛なるイイススよ、モイセイは蛇を木の上に挙げて、爾が甘んじて十字架に挙げら
 れ今日悪者の悪毒を^{いや}醫して、人々を己に就かしめて預兆せり。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、^{おそれ}懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義

を以て、生涯^{つか}彼に事へしめんと。

ハリストスよ、爾を畏るる畏の火を以て我を浄め、爾を愛する神聖なる愛を我が霊の
 中に燃し、爾の十字架を以て古の誘惑者が逸楽にて誘ひて味ましし我が智慧をてらし
 て護り給へ。

子よ、爾も至上者の預言者と^{とな}称へられん、蓋主の面前に行きて其の道を備へん、

兄弟よ、我等は汚らはしき思と悪しき行とを齎し、心を潔めて、神聖なる諸特に挙が
 り、舌なる卑しき慮りを退けん、浄き者として大いなるパスハを見ん為なり。

彼の民に、其救は^{すなわち} 即 諸罪の^{ゆるし}赦にして、我が神の^{あわれみ}矜恤に因ることを知らしめん。

〔生神女讃詞〕童貞女よ、本性の富める者は甘んじて爾より我が貧しきを衣、見えざる者
 は我等に見らるる者と為り、天上の會に歌はるる者は壊れたる像を新たにし給へり、
 其の慈憐に因りてなり。

此の^{あわれみ}矜恤に因りて、東旭は上より我等に^{あさひ}臨めり、

十字架に手を伸べて、四極を己に属せしめし神の子よ、我等衆爾に由りて父に入る門
 を得たる者は爾を崇め讃む。

^{くらやみ}幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

ハリストスよ、不法の者は爾に棘を冠らせ、爾を批ちて、十字架に釘せり、普天下は
 此に由りて動き、我等は救はれて爾を崇め讃む。

光榮は父と子と聖神[°]に帰す

〔聖三者讃詞〕我等は爾三光なる神性、萬有を持ちて、恒に護り給ふ、父、子、生活の神[°]を黙さざる歌を以て崇め讃む。

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕生神女よ、爾は神[°]の輝ける雲なり、是より我等の為に近づき難き光たるハリストス、義の大いなる日は輝き出でたり。故に我等歌を以て爾を崇め讃む。

我等の神よ、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

ハリストスの十字架よ、爾は我等の為に光、聖なる旗、勝利の記號なり、爾我等に節制を楽しき者と為して、爾に伏拝するを得しめよ。

(詠) イルモス 3調 「生神女よ、爾は属神[°]の活ける梯なり、神は此の上に立ち給う、我等此に因りて天に升るを得て、歌を以て爾を崇め讃む。」

第9歌頌イルモス

生- 神- 女 よ、なんじは 属神^{ぞくしん}の 生ける
 かけはし なり。我等 これによ って
 天に のぼるを 得て うたを 以て、
 爾を あがめ 讃^ほ む

常に福にして (6調)

小連禱